

概要

- 国際バカロレア（IB）とは、課題論文、批判的思考の探究等の特色的なカリキュラム、双方向・協働型授業により、グローバル化に対応した素養・能力を育成する教育プログラム。国際バカロレア機構の提供の下、世界150以上の国・地域の5,000校以上で実施。
- 高校レベルのディプロマ・プログラム（DP）では、**国際的に通用する大学入学資格（IB資格）が取得可能**であり、世界の大学入学者選抜で広く活用。幼稚園、小学校、中学校レベルのプログラムを含め、我が国のグローバル人材育成等に資する。
- **未来投資戦略2018（2018年6月閣議決定）において、IB認定校等を2020年度までに200校以上**にするという目標（2019年11月現在150校）を掲げており、各地域で関心が高まっている中、その**導入・運営のノウハウ等の支援に関する更なるニーズがある**。

IB導入の効果

①グローバル人材育成

- ✓ 幅広い知識の**探究スキル**、**課題発見・解決能力**、**コミュニケーション能力**等を育成
- ✓ 国際的な視野を持ち、AI等の技術革新、将来（Society 5.0）の社会課題に対応するグローバル人材を育成

②初等中等教育の質の向上

- ✓ IBと日本の教育政策の方向性は親和性が高い
- ✓ **主体的な学び**を通じた全人教育により、水平展開できる初等中等教育の好事例を形成

③国際的通用性

- ✓ IB資格を活用した**国内外への進路の多様化**
(ex)高校段階のプログラム（DP）のスコアにより、
 - ・ **海外大学の受験に活用可能**（学力試験の免除等）
 - ・ **海外大学では進学後の単位**として認定 等
- ✓ 国内大学でのIB入試導入により、海外のIB生を呼び込み、国内の**大学の国際化・活性化**

拡充

国内推進体制の整備

46百万円（26百万円）

日本国内における**IBの普及促進**及び**IB教育ノウハウの横展開等**を**主導**する組織として、平成30年に、IBに係る国内関係者を糾合した文部科学省IB教育推進コンソーシアムを設立。

【主な機能】

1. **関係者協議会**を通じた文部科学省への提言
2. 学校等への**日本の実情を踏まえたコンサルティング**等の実施
3. **ホームページ・オンラインフォーム**の管理運営を通じた**情報交換等の促進**
4. IB教育推進**シンポジウム**の開催



（参考）第一回IB教育推進シンポジウム

令和2年度予算（案）のポイント

1. IB認定校等の増加に向けたIB普及促進活動（15百万円）

IBと日本の教育制度・教育現場の事情の双方に精通したIB導入サポーターが、IB未導入地域におけるニーズの集約からIB校認定までのプロセスを一貫してサポートできる体制を構築

2. 外国人受入れ・共生に向けたIBの効果的活用方法に係る調査研究（5百万円）

日本人と外国人が共に学ぶ教育環境の整備のために、IBの活用方策に係る調査研究を実施

国際バカロレア機構との協力 60百万円（60百万円）

国際バカロレア機構との協力の下、DPの一部科目については日本語での受講及び最終試験の受験を可能とすることにより、我が国の学校におけるIB導入を促進。

（参考）制度面の支援

- ・ 大学入学者選抜におけるIBスコア等の活用促進（国内61大学が導入）
- ・ 外国人に対する特別免許状の授与促進等
- ・ DPと学習指導要領を無理なく履修するための教育課程の特例措置導入